

(1) 精神障害者の身体的不健康の改善に向けた行動変容プログラムの効果に関する研究

看護学科 伊藤治幸

研究背景・目的

- 精神障害者は、循環器疾患や糖尿病の有病率が高く、早期に死亡することが報告されている。
- 早期死亡の要因として、肥満や食事内容の乏しさ、運動量の不足が指摘されている。
- そこで、本研究では統合失調症患者の身体的不健康の予防にあたり、種々の身体測定を実施後、栄養と運動プログラムであるSolutions for Wellness: SfWを実施しその効果を明らかにすることとした。



研究方法

- 種々の身体測定、心理検査を行い横断的に対象者の特徴を把握する。SfWプログラムを実施し、Baseline、中間、最終測定の3回測定を行い、体重減少等の効果を見る。SfWの効果を見るために、Intervention group群とStandard care group群を設定し効果の違いを明らかにする。



研究成果

研究結果は表に示した通りである。次年度より入院群およびデイケア群の対象者を増加し調査を継続する。

表1. 対象者の特性

	Intervention group (IG) n=39	Standard care group (SCG) n=38
年齢	42.3 ± 11.9	49.5 ± 14.4
性別		
男性	17 (43.6)	25 (66.8)
女性	22 (56.4)	13 (34.2)
婚姻の有無		
既婚	4 (10.3)	3 (7.9)
未婚	35 (89.7)	35 (92.1)
最終学歴		
中学校	8 (20.5)	10 (26.3)
高校	23 (59.0)	21 (55.3)
専門学校・短大	5 (12.8)	3 (7.9)
大学卒	3 (7.7)	4 (10.5)
発症年齢	23.7 ± 7.4	28.7 ± 10.9
入院歴		
なし	4 (10.3)	8 (21.1)
あり	35 (89.7)	30 (78.9)
喫煙状況		
吸わない	20 (51.3)	13 (34.2)
過去喫煙	8 (20.5)	4 (10.5)
現在喫煙	11 (28.2)	21 (55.3)
飲酒状況		
飲まない	24 (61.5)	17 (44.7)
過去飲酒	6 (15.4)	16 (42.1)
現在飲酒	9 (23.1)	5 (13.2)
就労状況		
就労している	8 (20.5)	2 (5.3)
就労していない	31 (79.5)	36 (94.7)

表2. 身体測定値の結果

	Intervention group (IG) n=39	Standard care group (SCG) n=38
身長	161.6 ± 6.8	164.5 ± 8.6
体重	71.8 ± 14.4	74.3 ± 17.5
BMI	27.5 ± 4.9	27.4 ± 5.8
ウエスト(cm)	95.8 ± 14.1	97.8 ± 15.2
ヒップ(cm)	99.9 ± 9.9	101.9 ± 11.3
ウエストヒップ比	0.95 ± 0.09	0.96 ± 0.09
体脂肪率	33.4 ± 7.9	30.6 ± 10.9
脂肪量	24.3 ± 8.4	23.8 ± 12.5
除脂肪量	46.8 ± 10.9	50.5 ± 9.9
筋肉量	44.9 ± 9.5	47.8 ± 9.5
握力		
右(2回測定平均)	35.6 ± 18.3	33.9 ± 11.7
左(2回測定平均)	31.7 ± 10.3	32.9 ± 10.5
Tスコア	-2.15 ± 1.49	-1.72 ± 1.56
Zスコア	-1.10 ± 1.21	-0.32 ± 1.58
右ABI	1.02 ± 0.32	1.13 ± 0.11
左ABI	1.09 ± 0.87	1.11 ± 0.11
右baPWV	1240.0 ± 435.8	1359.4 ± 390.0
左baPWV	1327.6 ± 248.4	1366.3 ± 297.9
自尊感情尺度得点	38.0 ± 7.6	28.0 ± 8.0
一般性自己効力感尺度得点	4.9 ± 3.4	6.4 ± 3.4